

平成19年10月25日

第34号

素流協 News

平成19年10月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6 電話 019 (652) 7227 / FAX 019 (654) 8533

平成19年度 第2回 県産材利用拡大推進需給協議会

第2回県産材利用拡大推進需給協議会が9月25日(火)農林会館会議室で開催された。

協議会長である下山理事長の挨拶の後、事務局や各委員からの報告・質疑がなされた。

▽原木等需給動向の見通し

(1) 合板用県産材の供給量の実績推移と今後の見通し

この夏の組合員出荷量は、もう少し多い出荷を期待していたが、台風や秋雨前線による降雨等の影響で、出材が思うように進まなかった。

10月以降は、県南地方を主体としてアカマツ生産が本格的に始まるので、出荷量が増えるものと思う。

去る9月3日に、一関市市東町地区に中間ストックヤードを設置した。開設して間もないので、まだ実績は上がっていないが、林

内に残置されている少量材の活用や大型輸送による効率化、工場への供給調整機能を期待している。

【主な質疑】

Q 国有林以外の生産も活発に見受けられるが、実態はどうか。

A もう少し長い期間見て判断する必要があるが、新しい組合員の出荷量が多くなってきているという新たな兆候が見られる。

Q 中間ストックヤードの集荷計画は。

A 月六〇〇mの受入を計画している。なお、松食い虫被害の関係でアカマツ材の受入はしない。

(2) 合板用原木の輸入の現状と今後の見通し

北洋材は、7月の原木輸出税の増税関係から、6月までの入荷が多く、国内の在庫が多くなったことから、7〜8月の取引が少なくなっている。

今後10月〜11月になるとロシア材の買いに移らざるを得なくなるが、1〜2等材が入りにくくなっている。

合板工場は各社とも国産材比率が3割以上となっていており、国産材の供給量及び価格は今後とも下がることなく続くものと思われる。

一方、国内の製品価格が下がってきていることから、各工場とも8月から2割減産を行っている。

今後、住宅着工数はいくらか回復するとは思われるが、秋口までは今の厳しい状況が続くことであろう。

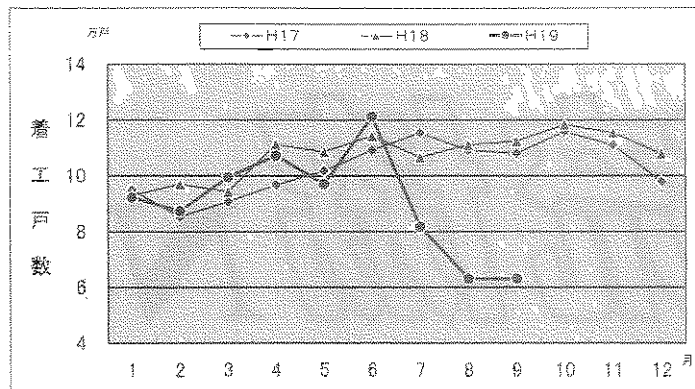
【主な質疑】

Q 合板工場は、減産体制により国産材利用を減らすことはないか。

A 合板工場は、国産材比率50%を目標としており、2割減産しても、まだ国産材比率50%にはならないので、調整は外材でとることとなる。

(3) 合板製品及び広域における合

板用国産原木の需給動向について
 今年は製品を商社が大量に輸入
 して、それが在庫となつているの
 に加えて、6月20日の建築基準法
 改正が、木造の住宅着工戸数に大
 きな影響を及ぼし、いまの戸数減
 少となつて現れている。(図参照)



新設住宅着工戸数の推移

今年の住宅着工戸数は一〇〇万
 戸を超えるだろうと予測してい
 が、今の状況では一〇〇万戸を割
 るという悪い状況にある。
 合板工場は、減産体制をとつて

いるが、それがまだ統計値として
 出していないので、今後生産状況や
 輸入状況が見えてきて、初めて需
 要が出てくると思われる。

更に、今後順時、住宅の建築確
 認許可もおりてくるので、年内に
 は需要は回復するとは思われるが、
 東京都市にはまだ売れ残りの住宅
 があり、加えて、土地が値上がり
 していることから、戸建よりもマ
 ンション購入へ移る可能性もある。
 今年の需要は非常に冷えこむの
 ではないかと思われる。

【主な質疑】

Q 国産材価格があまり高くなる
 と、需要者側の対応も変わつて
 くるのではないか。

A 国産材のB、C材価格は外材
 価格の80%が限度であると思う。
 古い住宅の耐震補強を合板で
 やると生産量が増える可能性が
 ある。

しかし、価格が乱高下すると、
 設計者が迷うこととなり、OS
 Bやパーティクルボードに替わ
 る可能性もある。

▽その他

事務局や県林業振興課より次の
 話題提供があり、協議会を終了し
 た。

①合法性証明の取組み

②国有林の「素材の安定供給シス
 テム販売」の進捗状況
 ③岩手県の話題提供「林業・木材
 産業等振興施設整備交付金」につ
 いて

平成18年度 第2回理事会 報告

去る10月11日(木) 農林会館会
 議室で第2回理事会が開催され、
 次の3議案が協議、決定されまし
 た。

◇提案事項と内容

▽林業機械のリース事業開始につ
 いて

「平成18年度林業・木材産業等

振興施設整備事業」を活用して、
 総事業費1億9794万9千円で
 もつて高性能林業機械12台を購
 入する。

▽システム販売の契約内容変更につ
 いて

今年度のシステム販売は、東北
 森林管理局と合板工場との2者協
 定に変更され、素流協は合板工場

の委託を受けて素材1万6800
 立方メートルの供給を行う。

▽ストックヤード設置について
 少量分散的であるため林地に放
 置されている未利用材を利用する
 ため、ストックヤードを一関市大
 東町に設置し、受入を開始してい
 る。

また、青森県下北半島地区にも
 12月設置を目標に準備中である。

◇その他

報告事項として、①ホームペー
 ジの開設②立木購入について事務
 局より報告されました。

なお、理事会出席者は、理事8
 名中(1名欠員)6名、監事2名
 中1名でした。

ウッドマイルズ講座 (3)

住宅建築における

ウッドマイルレージの持つ意味

▽ 近年、「近くの山の木で家(地域材住宅)を作る運動」が各地で行われています。各住宅とも構造材の比率が最も多く、県産材住宅や準県産材住宅では55〜65%になっている。しかし、下地材や

造作材も無視できない量と

なっている。なお、建具材や家具材等は

4 地域材住宅とウッドマイルレージ

(1)調査住宅 調査した対象住宅(7棟)は木造2階建ての一般的木造住宅(広さ一〇〇〜一七二㎡)で、使用木材量の産地別比率によって、県産材住宅(3棟)、準県産材住宅(3棟)、輸入材住宅(1棟)に区分している。(表)

(2)木材使用量 各住宅の木材使用量は、部材を構造材や下地材、造作材などに区分して調査している。

表 調査住宅の内容

| 区分 | 調査棟数 | 使用木材の産地比率(%) | | | 使用木材の(㎡、%) | |
|--------|------|--------------|-------|-----|------------|-------|
| | | 自 県 | 近隣県 | 外 国 | ㎡当たり量 | 構造材比率 |
| 県産材住宅 | 3 | 65~90 | 10~30 | 5以下 | 0.38 | 64 |
| 準県産材住宅 | 3 | + | 95以上 | 5以下 | 0.39 | 56 |
| 輸入材住宅 | 1 | + | 40 | 60 | 0.20 | 46 |

量(表)は、輸入材住宅の約二・〇倍の量となっている。

なお、わが国の一般的な木造住宅の平均木材使用量は〇・一八立方メートルであり、輸入材住宅の木材使用量は近似した値となっているが、県産材住宅と準県産材住宅は約二・〇倍強の使用量となっている。これは、地域材住宅が積極的に木材利用を進めようという取組みの結果であると思われる。(3)ウッドマイルレージ、ウッドマイルズ

各住宅のウッドマイルレージ(木材使用量×その輸送距離、km・㎡)を求める(図)と、県産材住宅や準県産材住宅の木材使用量は輸入材住宅の2倍強であるのに、それらのウッドマイルレージは60%程度低い値となっている。また、単位木材使用量あたりの輸送距離を表すウッドマイルズ(ウッドマイルレージ÷木材使用量、km)も、当然のことながら、両者の違いは一目瞭然なものとなっている。▽ 以上のように、住宅建築にお

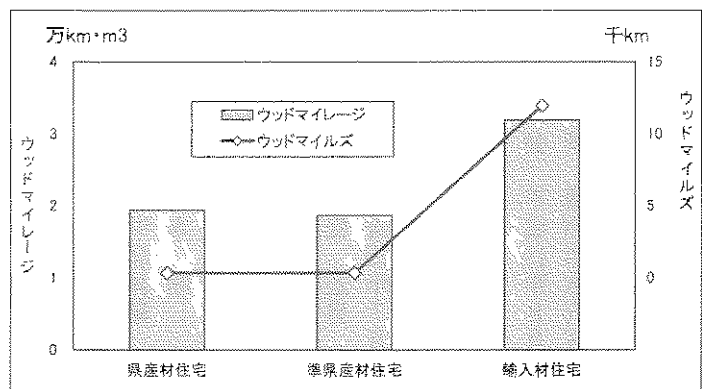


図 ウッドマイルレージとウッドマイルズ

トピックス

高橋早弓常務理事が、(財)岩手県林業労働対策基金主催の林業雇用改善セミナー(10月23日(奥州市水沢区)、24日(盛岡市))で「素

流協から見た地域産針葉樹材の流通・加工の現状と今後の見通し」と題して講演しました。

新規組合員紹介

今年度7月1日から9月末日まで、次の方々が新たに組合員となられたのでお知らせします。

平成19年9月末日現在で、組合員58名、賛助会員13名となっております。

☆新組合員

1 住所 大船渡市日頃市町

会社名 佐藤造林

代表 佐藤 達也

入会 平成19年7月2日

2 住所 二戸郡一戸町

会社名 柴田 産業

代表 柴田 慶二

入会 平成19年7月23日

3 住所 上閉伊郡大槌町

会社名 (株)中部林業

代表 石本 朗

入会 平成19年7月30日

4 住所 遠野市小友町

会社名 仲山林業

代表 小松 正男

入会 平成19年7月30日

5 住所 下閉伊郡岩泉町

会社名 中村運送(有)

代表 中村 武

入会 平成19年8月28日

6 住所 奥州市水沢区

会社名 (有)東雲興業

代表 鈴木 正

入会 平成19年9月10日

上半期販売実績の年度別比較

▽会員生産

合板用会員生産の上半期販売実績は、図1のようになる。

年度ごとに増大してきており、平成19年度の六三、四六三mは、平成17年度の一・六倍、平成18年度の一・一倍となっている。

また、年間実績(H19は計画量)に対する比率は、平成17年度以降上昇してきており、今年度初めて

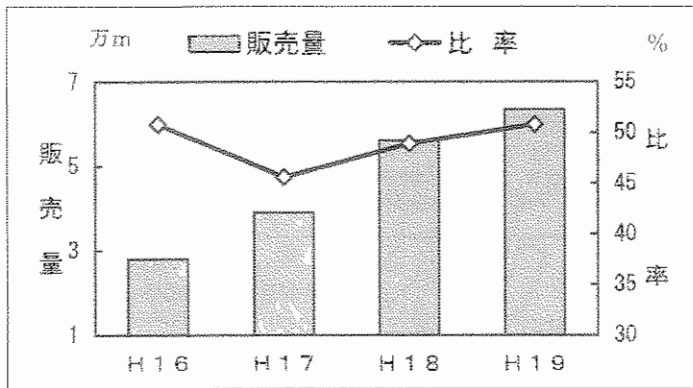


図1 上半期販売量と年間実績に対する比率(会員生産)

50%を超えている。

樹種割合の推移(図2)は、スギの割合が増大し、カラマツが減少した平成17年以降、年々スギの割合が増大し、アカマツが増大している。

平成17～19年の3年間で、カラマツは20%前後と変化していないが、スギが10%程度減少し、アカマツが10%程度増大している。

▽システム販売

システム販売の上半期出荷量は、図3のようになる。

冗談欄 とらないでマスクの君は美しい

寒くなり空気が乾いてくると、マスク美人が増えてくる。

女性が美しく見えるのは、古くは夜目、遠目、傘の中といわれたようだが、今はマスク美人とかメガネ美人といわれるようだ。

顔の一部を隠してしまふことにより、美しいだろうと勝手に想像させるようである。

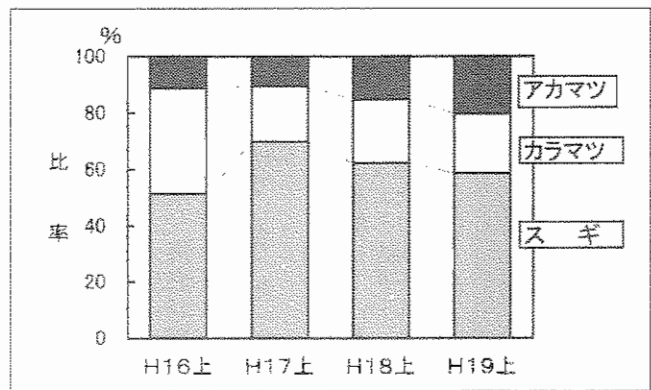


図2 上半期販売量の樹種別比率(会員生産)

平成19年度は、出荷量、出荷率ともに低くなっており、今年度の

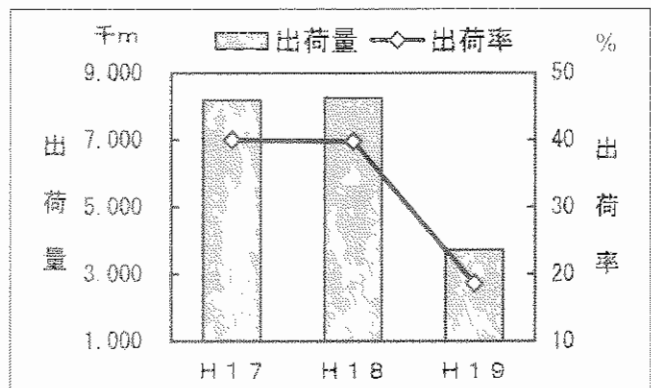


図3 上半期出荷量と出荷率(システム販売)

システム販売は例年より遅れていることを示している。

しみたいにファッション性のあるものも販売されている。

「マスク美人」とインターネットで調べていたら、「お尻を軽く指で押してみても、柔らかければ食べごろです。」とでてきた。よくみると、秋田県男鹿半島産の「マスク美人メロン」の宣伝であった。

顔を隠したマスク美人より、健康美人や知的美人、少ストレス美人を望むものである。

平成19年9月分の販売実績

- 1 合板用の会員生産は、先月より約1,300m³少ない、約7,600m³となった。樹種別割合は先月と近似しているが、出荷先割合は先月より約10%ホクヨープライウッドが減少し、北日本プライウッドが増大している。なお、一関市大東町のストックヤードの取扱量は、153m³となっている。また、システム販売もようやく動き出し、約1,650m³の出荷となっている。
- 2 その他（合板用以外）の出荷は先月の2倍強の約370m³となっている。
- 3 年間計画量に対する9月までの累積出荷量の割合（目標達成率）を、9月までの目標達成率50%と比較すると、合板用の会員生産は順調に進捗しているが、合板用システム販売とその他の出荷が大きく下回っており、全体での達成率を引き下げている。

(m³, %)

| 区分 | 出荷者 | 樹種 | 長級 | 販売先 | | | | 累計 | 割合 | | 目標達成率 | 19年度計画量 | | | |
|------|--------|-------|-------|------------|-----------|--------|--------|--------|---------|------|--------|---------|-------|------|--------|
| | | | | ホクヨープライウッド | 北日本プライウッド | その他 | 計 | | 長級別 | 樹種別 | | | | | |
| 合板用 | 会員生産 | スギ | 2.0 | 1,669 | 1,844 | | 3,513 | 23,345 | 62.8 | 58.6 | 50.8 | 125,000 | | | |
| | | | 2.1 | | 51 | | 51 | 1,558 | 4.2 | | | | | | |
| | | | 4.0 | 845 | 849 | | 1,694 | 12,293 | 33.1 | | | | | | |
| | | 計 | 2,514 | 2,744 | | 5,258 | 37,197 | 100.0 | | | | | | | |
| | | カラマツ | 2.0 | 607 | 152 | | 759 | 11,461 | 85.7 | | | | | | |
| | | | 2.1 | 454 | | | 454 | 1,031 | 7.7 | | | | | | |
| | | | 4.0 | 122 | 25 | | 147 | 878 | 6.6 | | | | | | |
| | | 計 | 1,183 | 177 | | 1,360 | 13,369 | 100.0 | | | | | | | |
| | | アカマツ | 2.0 | 790 | 163 | | 953 | 11,756 | 91.2 | | | | 21.1 | | |
| | 2.1 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4.0 | | | 7 | | 7 | 1,141 | 8.8 | | | | | | | |
| | 計 | 790 | 170 | | 960 | 12,897 | 100.0 | | | | | | | | |
| | 販売システム | スギ | スギ | 2.0 | 1,284 | 166 | | 1,450 | 2,913 | 78.3 | | | 100.0 | 18.6 | 20,000 |
| | | | カラマツ | 2.0 | 162 | | | 152 | 683 | 18.4 | | | | | |
| アカマツ | | | 2.0 | 41 | | | 41 | 124 | 3.3 | | | | | | |
| 計 | | | 1,487 | 166 | | 1,653 | 3,720 | 100.0 | | | | | | | |
| 計 | | | 5,975 | 3,257 | | 9,231 | 67,183 | 46.3 | | | | | | | |
| その他 | 広葉樹 | スギ | | | | 182 | 182 | 2,103 | 65.2 | 16.1 | 20,000 | | | | |
| | | カラマツ | | | | 185 | 185 | 986 | 30.5 | | | | | | |
| | | アカマツ | | | | | | 139 | 4.3 | | | | | | |
| | | 計 | | | | 367 | 367 | 3,228 | 100.0 | | | | | | |
| 合計 | | 5,975 | 3,257 | 367 | 9,598 | 70,411 | 42.7 | | 165,000 | | | | | | |

落穂拾い

▽10月の初めに私用があつて北海道の北見市に出掛けた。新千歳空港経由で女満別空港に降り立ったのだが、空の上から道東地方を俯瞰すると下界の山々は見事な黄金色に彩られていた。それはカラマツ人工林の黄葉が一面に広がっている景色であつた。

その景色を見ながら一瞬頭を過(よ)ぎった思ひは、最近のカラマツ材の価格の上昇振りと見渡す限りの黄金色のカラマツの森林の相関(直接的には関係ないね)である。これらのカラマツ林も伐採し始めると、アツという間にハゲ山になつてしまふことであろう。

循環資源としての森林についても思ひを馳せてしまつた一時であつた。

▽原油価格が高騰している。現在、1バレル当たり94ドルとなつており、早晚一〇〇ドル/バレルになるだろうとの予測がちらほらと出ている。過去を遡ると、昭和48年(一九七三年)10月に1バレル当たりの原油価格が3ドルから

一一・六ドル(約三・九倍)に値上げされた(第一次石油ショック)。次に、昭和53年(一九七八年)12月から55年1月にかけて、1バレル当たり二二・八ドルから二六・八ドル(約二・一倍)に値上げされ、これが第二次石油ショックといわれたものである。

その後長い時を経て世界的な経済の成長や物価の上昇に伴つて原油価格も上がってきたものの今次の原油価格の短時目における上昇振りは異常である。資源的に有限である石油は、今後も産油国の政策的・戦略的な物質として世界の経済活動に大きな影響を与え続けるであろうが、代替燃料資源としてのバイオマス燃料の開発も今まで以上に進むことであろう。

わが国における再生産可能な資源として唯一ともいえる森林資源の有効活用の観点から、バイオマス燃料の効率的な使用方法の開発が強く求められている。

連想として浮かんでくるのが、切捨てられている間伐木の姿である。